



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8

担当

TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2024/03/04
SDS整理番号 02333250

製品等のコード : 0233-3250、0233-2230

製品等の名称 : ビスフェノール A
(2,2-ビス(p-ヒドロキシフェニル)プロパン)

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
ポリカーボネート樹脂・エポキシ樹脂合成原料、塩化ビニル樹脂添加剤、
ポリエステル樹脂中間体、難燃剤・熱硬化剤樹脂・塩ビ樹脂添加剤、
インキ樹脂用・塗料・接着剤用・窯業鋳型用バインダー添加剤など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
自然発火性固体 : 区分に該当しない

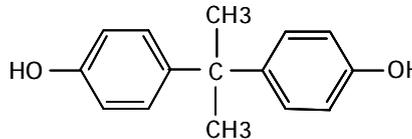
健康に対する有害性
急性毒性(経口) : 区分に該当しない [区分5(国連GHS分類)]
急性毒性(経皮) : 区分に該当しない [区分5(国連GHS分類)]
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分1
皮膚感受性 : 区分1
生殖毒性 : 区分1B
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分1(呼吸器)、
区分3(麻酔作用)
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分2(消化管、呼吸器)

環境に対する有害性
水生環境有害性 短期(急性) : 区分2
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分2

注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

飲み込むと有害のおそれ(経口)
皮膚に接触すると有害のおそれ
重篤な眼の損傷
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
呼吸器の障害
眠気又はめまいのおそれ
長期又は反復ばく露による消化管、呼吸器の障害のおそれ
水生生物に毒性



長期的影響により水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
環境への排出を避けること。

【応急措置】

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。
眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。
皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
漏出物を回収すること。

【保管】

日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	:	化学物質
化学名	:	2,2-ビス(p-ヒドロキシフェニル)プロパン (別名) ビスフェノール A、 4,4'-プロパン-2,2-ジイルジフェノール、 4,4'-(プロパン-2,2-ジイル)ジフェノール、 4,4'-イソプロピリデンジフェノール、 2,2-ビス(4-ヒドロキシフェニル)プロパン、 2,2-ジ(p-ヒドロキシフェニル)プロパン、 ジフェノールプロパン (英名) Bisphenol A、 4,4'-Propane-2,2-diylidiphenol、 4,4'-Isopropylidenediphenol (EC名称)、 4,4'-(1-Methylethylidene)bisphenol、 2,2-Bis(4-hydroxyphenyl)propane、 2,2-Di(p-hydroxyphenyl)propane、 2,2'-(4,4'-Dihydroxydiphenyl)propane、 Isopropylidenediphenol、 Phenol, 4,4'-(1-methylethylidene)bis- (TSCA名称)
成分及び含有量	:	2,2-ビス(p-ヒドロキシフェニル)プロパン、 98.0%以上
化学式及び構造式	:	(CH ₃) ₂ C(C ₆ H ₄ OH) ₂ 、 [4-(HO)C ₆ H ₄] ₂ C(CH ₃) ₂ 、 C ₁₅ H ₁₆ O ₂ 、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	228.29
官報公示整理番号	:	(4)-123
化審法	:	公表化学物質(化審法番号を準用)
労安法	:	
CAS No.	:	80-05-7
EC No.	:	201-245-8
REACH: 高懸念物質(SVHC)	:	「4,4'-isopropylidenediphenol (Bisphenol A; BPA) (ステータス: Candidate List)
危険有害成分	:	2,2-ビス(p-ヒドロキシフェニル)プロパン

4. 応急処置

吸入した場合	:	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の治療を受けること。
皮膚に付着した場合	:	直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 皮膚を速やかに多量の水と石鹼で洗う。 皮膚刺激または発疹が生じた時は、医師の診察、手当を受ける。 汚染された作業衣は作業場から出さない。

- 目に入った場合 : 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
直ちに医師に連絡する。
直ちに、清浄な水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗淨すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。まぶたを親指と人さし指で拡げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗淨する。
次に、コンタクトレンズを着用していて固着していなければ除去し、洗淨を続ける。
目の洗淨が遅れたり、不十分の場合は、眼の障害のおそれがある。眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに口をすすぎ、うがいをする。
大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。
意識がない時は、何も与えない。
気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
- 予想される急性症状及び遅発性症状:
吸入 : 咳、咽頭痛
皮膚に付着 : 発赤
眼に付着 : 発赤、痛み
経口摂取 : 吐き気

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 本製品は可燃性である。
粉末消火薬剤、水噴霧、泡消火薬剤、二酸化炭素
大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
- 使ってはならない消火剤 : 棒状放水(本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがあるため)
- 特有の危険有害性 : 火災中に熱分解し、刺激性又は毒性のガスを発生する可能性がある。
- 特有の消火方法 : 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護 : 有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。
風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。
粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項 : 河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。
- 回収、中和 : 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。
漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。
回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。
- 二次災害の防止策 : 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火災の禁止)。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い
技術的対策 : 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
粉じんの堆積を防止する。
- 局所排気・全体換気
安全取扱い注意事項 : 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
裸火禁止。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避 : 湿気、水、高温体との接触を避ける。
- 保管

- 技術的対策 : 保管場所は耐火構造とし、出入口は施錠する。
保管場所は、採光と換気装置を設置する。
保管条件 : 日光や高温多湿を避けて保管する。
容器を密閉して冷暗所に保管する。
混触危険物質 : 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
容器包装材料 : 強酸化剤、強塩基、酸無水物、酸塩化物
ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラスなど

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 未設定
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標) : 未設定
日本産衛学会 : 未設定
ACGIH : 未設定
設備対策 : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
保護具
呼吸器の保護具 : 呼吸器保護具(防じんマスク)を着用する。
手の保護具 : 保護手袋(塩化ビニル製、ニトリル製など)を着用する。
眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用する。
皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣を着用する。
必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策 : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
作業衣を家に持ち帰ってはならない。
保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態
性状 : 結晶～結晶性粉末
色 : 白色
臭い : わずかにフェノール臭
pH : 約2(飽和水溶液、20℃)
融点 : 156
凝固点 : データなし
沸点 : 360
引火点 : 227(密閉式)
可燃性 : 可燃性
爆発範囲 : 下限 データなし 上限 データなし
粉塵爆発の可能性あり。
蒸気圧 : 87 Pa (190℃)
蒸気密度(空気=1) : 8.1
相対ガス密度(空気=1) : データなし
密度又は相対密度 : 1.20
比重 : データなし
溶解度 : 水にほとんど溶けない(0.012g/100mL、25℃)。
エタノール、ジエチルエーテル、アセトン、トルエンに溶ける。
四塩化炭素に溶けにくい。
オクタノール/水分配係数 : $\log Pow = 3.4$
発火点 : 510
分解温度 : データなし
粘度 : データなし
動粘度 : データなし
粒子特性 : データなし
GHS分類
自然発火性固体 : 常温の空気と接触しても自然発火しない(発火点510℃、ICSC(J)(2011))ことから、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

- 安定性(反応性・化学的安定性) : 通常取扱条件において安定である。
粉末または顆粒上で空気と混合すると、粉塵爆発の可能性がある。
危険有害反応可能性 : 強酸化剤、強塩基、酸無水物または酸塩化物と混触すると激しく反応することがある。
粉末や顆粒状で空気と混合すると、粉塵爆発の可能性がある。
避けるべき条件 : 日光、高熱

混触危険物質 : 強酸化剤、強塩基、酸無水物、酸塩化物
 危険有害な分解生成物 : 燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素などを生成する。

11. 有害性情報

- 急性毒性 : 経口 ラット LD50 = 3,300 mg/kg (EU-RAR No.37 (2003))
 区分5とした(国連GHS分類)。
 ただし、分類JISでは区分に該当しないである。
 飲み込むと有害のおそれ(経口)(区分5)
 経皮 ウサギ LD50 = 3,000 mg/kg (HSDB (Access 2016))
 区分5とした(国連GHS分類)。
 ただし、分類JISでは区分に該当しないである。
 皮膚に接触すると有害のおそれ(経皮)(区分5)
 吸入(ガス) GHSの定義による液体であるため、ガスでの吸入
 は想定されず、区分に該当しない。
 吸入(蒸気) 分類できない。
 吸入(粉じん) 分類できない。
- 皮膚腐食性/刺激性 : 区分に該当しない。
 ウサギの皮膚刺激性試験結果(4時間塗布、OECD TG 404)では皮膚
 刺激性は認められなかったことから(DFGOT suppl (2011)、EU-RAR
 (2010))、区分に該当しないとされた。
- 眼に対する重篤な損傷/刺激性 : ウサギの眼刺激性試験(OECD TG 405)では角膜、虹彩への影響が
 適用後28日まで持続して観察された(DFGOT suppl (2011)、EU-RAR
 (2010))。また、ウサギで軽度~中等度の刺激性も報告されている
 ことから(DFGOT vol. 13 (1999))、眼損傷性があると判断され、
 区分1とした。
 重篤な眼の損傷(区分1)
- 呼吸器感受性 : 分類できない。
 皮膚感受性 : モルモットのビューラー法による皮膚感受性試験では、50%溶液の
 誘発で12.5%(16例中2例)に陽性反応が認められたが(DFGOT suppl
 (2011))、ガイドランス値の15%以下であった。
 また、モルモットのマキシマイゼーション法では陰性(DFGOT vol. 13
 (1999))、マウスを用いた皮膚感受性試験(LLNA法変法)では30%溶液
 の誘発で陰性であった(DFGOT suppl (2011)、EU-RAR (2010))。
 一方、ヒトでは、本物質の他、エポキシ化合物等を取り扱った皮膚炎
 発症作業者を対象としたパッチテストでは、本物質に陽性反応を示す
 例が認められている(EU-RAR (2010))が、本物質の製造工場従事者
 を対象とした疫学調査では、110~500例のすべての従事者で皮膚感受
 性は陰性であったとする報告もある(EU-RAR (2010)、DFGOT vol. 13
 (1999))。
 本物質は感受性物質として、Frosch接触アレルギーリスト(Frosch
 et al. Contact Dermatitis 5th Ed. (2011))に記載されている。
 以上、多くの動物試験やヒトの疫学調査で陰性との報告もあるものの
 明確な証拠が不十分であることから、区分1とした。
 アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ(区分1)
- 生殖細胞変異原性 : 分類できない。
 EU-RAR No.37(2003)、CERI・NITE有害性評価書 No.4(2005)の記述
 より、生殖細胞in vivo経世代変異原性/変異原性試験なし(優性
 致死試験での陰性結果は、EU-RARでも信頼性について判断できな
 いとしているため分類データとして採用できないと判断した)、体細胞
 を用いたin vivo変異原性試験(小核試験)で陰性であった。
- 発がん性 : 分類できない。
 ラット、又はマウスを用いた2年間の経口経路(混餌投与)による
 発がん性試験では、ラット、マウスともに発がん性の証拠は示され
 なかった(NTP TR 215 (1982)、EU-RAR (2010))。
 その後、複数のイニシエーターを用いた本物質のプロモーター活性
 の有無の検討では複数の臓器に対してプロモーター作用は全く検出
 されなかった(EU-RAR (2010))。
 また、出生前に本物質にばく露された動物の乳腺に前がん病変と腫
 瘍性変化がみられたと報告されたが、評価手法に技術的な問題があ
 り信頼性に疑問があることに加えて、複数ある生殖毒性試験で乳腺
 に前がん病変が一貫してみられておらず、発がん性の証拠としては
 不十分であるとされた(EU-RAR (2010))。
 これらの出生前後に本物質投与を行った追加試験でも発がんのプロ
 モーター作用を示す証拠は得られず、初期の2年間発がん性試験結果
 における発がん性の証拠なしとの結論を支持するものとして、EUは
 実験動物のデータを総合判断した結果、本物質は発がん作用を有さ
 ないと示唆されると結論している(EU-RAR (2010))。
 以上、EUの結論からは区分に該当しないと考えられるが、吸入、

- 経皮など経口以外の経路での発がん性情報が不足しており、本項は分類できないとした。
- 生殖毒性** : ラットに低用量 (0.2 ~ 200 µg/kg/day) を投与した2世代試験では生殖能への影響はみられていないが、ラットを用いた3世代試験では各世代とも500 mg/kg/day で一般毒性 (体重の軽度低下 (雌雄)、尿細管の変性(雌のみ)) と共に生殖毒性 (同腹児数の減少) がみられた (EU-RAR (2010))。また、マウスに極低用量から高用量まで (0.003 ~ 600 mg/kg/day) 投与した2世代試験では生殖能への影響はみられなかったが、マウスを用いた連続交配試験において、F0の600 mg/kg/day以上で妊娠腹数の減少が生じ、同腹児数と同腹生存児数の減少が第4 ~ 第5腹まで連続してみられた。この生殖影響は親動物に一般毒性影響のない用量でみられた (EU-RAR (2010))。以上の生殖毒性試験を通して、生殖影響のNOAELはラット3世代試験から 50 mg/kg/day と設定された。一方、ラット、マウスを用いた標準的な発生毒性試験ではビスフェノールAが発生毒性物質であるとの証拠は得られていない。ただし、上記のラット3世代試験では500 mg/kg/dayでF1 ~ F3児動物に離乳までの体重の低値推移と性成熟遅延が認められ、またマウス2世代試験でも600 mg/kg/dayでF1児動物の体重の低値とともに、F1、F2雄児動物の離乳時に精巣下降不全、及び精細管の低形成がみられており、次世代への発生・発達影響が示されている (EU-RAR (2010))。以上、本物質は実験動物で生殖発生毒性を示す証拠が十分あり、特にマウス連続交配試験では親動物に一般毒性影響がない用量で生殖能低下がみられていることから、本項は区分1Bとした。生殖能又は胎児への悪影響のおそれ (区分1B)
- 特定標的臓器毒性 (単回ばく露)** : 本物質のヒトでの単回ばく露のデータはない。実験動物ではラットを用いた単回吸入ばく露試験で、鼻腔上皮組織の軽微な炎症と鼻腔から口腔にかけての粘膜の軽微な潰瘍形成が区分1のガイダンス値範囲の濃度で認められたとの記載がある (EU-RAR (2010))。またラットの単回経口投与試験で2,000 mg/kgの用量で傾眠と衰弱が認められたが死亡例はなかったとの記載がある (EU-RAR (2010))。さらにラット、マウス、ウサギへの単回経口投与で、興奮とそれに続いて緊張減退、痙攣、運動失調、下痢そして尿量の増加が認められたとの報告がある (NITE初期リスク評価書 (2005)、DFGOT vol. 13 (1999))。以上より区分1 (呼吸器)、区分3 (麻酔作用) とした。呼吸器の障害 (区分1) 眠気又はめまいのおそれ (区分3)
- 特定標的臓器毒性 (反復ばく露)** : ヒトについての情報は無い。ラットを用いた強制経口投与による28 ~ 32日間反復投与毒性試験において、区分2相当の200 mg/kg/day (28日間投与、90日間換算: 62 mg/kg/day) で消化管への影響 (結腸粘膜の過形成、十二指腸及び空腸の中心乳び腔拡張) の報告がある (NITE初期リスク評価書 (2005))。また、ラットを用いた吸入毒性試験において、区分2相当の50 mg/m³ (6時間/日、65日間暴露: ガイダンス値換算: 0.036 mg/L) で呼吸器への影響 (鼻腔、呼吸粘膜の炎症、扁平上皮過形成) の報告がある (NITE初期リスク評価書 (2005)、DFGOT suppl (2011)、EU-RAR (2010))。以上の事から、区分2 (消化管、呼吸器) とした。長期又は反復ばく露による消化管、呼吸器の障害のおそれ (区分2)
- 誤えん有害性** : 分類できない。

12. 環境影響情報

- 生態毒性**
- 水生環境有害性 短期(急性) : 甲殻類 (ミシドシュリンブ) 96時間LC50 = 1.1 mg/L (ECETOC TR91, 2003、EU-RAR, 2010、NITE初期リスク評価書, 2005、環境省リスク評価第3巻, 2004)
- 水生環境有害性 長期(慢性) : 水生生物に毒性 (区分2) 急速分解性がなく(2週間でのBODによる分解度: 0%(既存点検, 1977))、魚類 (ファットヘッドミノー) の164日間NOEC = 0.16 mg/L (NITE初期リスク評価書, 2005、環境省リスク評価第3巻, 2004) であることから、区分2とした。長期的影響により水生生物に毒性 (区分2)

ビスフェノールA (2,2-ビス(p-ヒドロキシフェニル)プロパン; 4,4'-イソプロピリデンフェノール) 改訂日: 2024/03/04

残留性・分解性 : 難分解性。BOD分解度 = 0%
生物蓄積性 : データなし
土壤中の移動性 : データなし
オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
(参考) 燃焼法
可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉(おが屑)等に吸収させて、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室で焼却する。
汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

国内規制(適用法令)
陸上規制 : 特段の規制なし(非危険物)
海上規制 : 特段の規制なし(非危険物)
航空規制 : 特段の規制なし(非危険物)
国連番号 : 非該当
国連分類 : 非該当
品名 : 非該当
海洋汚染物質 : 非該当
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : 非該当
特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
重量物を上積みしない。
必要に応じ移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 非該当(R6年3月31日まで)
R6年4月1日以降、次のように該当。
名称等を表示すべき危険物及び有害物
(政令番号 第412号の2「4,4'-イソプロピリデンジフェノール(別名ビスフェノールA)」、対象重量%は 0.3」)
名称等を通知すべき危険物及び有害物
(政令番号 第412号の2「」、対象重量%は 0.1」)
(別表第9)
皮膚等障害化学物質「皮膚刺激性有害物質」
「4,4'-イソプロピリデンジフェノール(別名ビスフェノールA)」
(安衛則第594条の2)
化審法 : 優先評価化学物質 No.75(官報公示日: 2011/04/01)
「4,4'-(プロパン-2,2'-ジイル)ジフェノール(別名4,4'-イソプロピリデンジフェノール又はビスフェノールA)」
評価対象: 生態影響
旧第二種監視化学物質 No.999(官報公示日: 2010/03/19)
旧第三種監視化学物質 No.12(官報公示日: 2006/07/18)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)
: 種別 「第1種指定化学物質」
: 政令番号 「1-55」〔ただし、R5年3月31日まで「1-37」〕
: 管理番号 「37」
: 政令名称 「4,4'-イソプロピリデンジフェノール(別名:ビスフェノールA)」
消防法 : 非該当
毒物及び劇物取締法 : 非該当

ビスフェノールA (2,2-ビス(p-ヒドロキシフェニル)プロパン; 4,4'-イソプロピリデンフェノール) 改訂日: 2024/03/04

船舶安全法	: 非該当
航空法	: 非該当
大気汚染防止法	: 有害大気汚染物質 (中環審第9次答申の18) 「4,4'-イソプロピリデンジフェノール (別名: ビスフェノールA)」
水質汚濁防止法	: 指定物質 (施行令第三条第三項) 「フェノール類及びその塩類」
輸出貿易管理令	: キャッチオール規制 (別表第1の16項) HSコード: 2907.23 第29類 有機化学品 ・輸出統計番号 (2024年1月版): 2907.23-000 「フェノール及びフェノールアルコール - 多価フェノール及びフェノールアルコール: 4,4'-イソプロ ピリデンジフェノール(ビスフェノールA)」 ・輸入統計番号 (2024年2月1日版): 2907.23-000 「フェノール及びフェノールアルコール - 多価フェノール及びフェノールアルコール: 4,4'-イソプロ ピリデンジフェノール(ビスフェノールA)」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献	:	
化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ		化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ		化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧		中央労働災害防止協会編
化学大辞典		共同出版
安衛法化学物質		化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)		医歯薬出版
化学物質安全性データブック		オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)		三共出版
化学物質の危険・有害性便覧		労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances		NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース		nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報		中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。